

中露の独特の政治制度と軍事協力関係

漢和防務評論 20150331 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

漢和防務評論に中露の軍事協力関係を俯瞰する記事がありましたので紹介します。この記事は主としてロシア側から見た対中軍事技術協力の歴史を述べたものです。ロシアが上から目線で中国を見た記事になっています。ウクライナ危機以降、かつて政治制度の似通った中露両国は接近を強めています。あくまで西側に対抗するためだけで、両国は宣伝に努めていますが、軍事的に見て実質的な効果は限度がありましよう。

YEVGUENY LISANOV
(編集部 KHOO JIN KIAT 監修)

離婚—結婚—再離婚の循環

歴史的宿命論によれば、中国、ロシア（中露）は、近代史上、政治制度において西側と一致したことは無かった。中露の政治路線は、別にな一派を成し、自ら一派を成し、西側と融和することはなかった。このことは、両国が相互に同病相憐れむ関係をもたらした。

旧ソ連時代の中露の軍事協力はこのような背景の下に行われた。両国は社会主義国家であり、1949年から1969年の間、中国は総額41億ドルの武器装備をロシアから導入した。中露の軍事協力は1949年に始まったが、1969年、双方の関係悪化により完全に終止した。これが1回目の”離婚”である。1951年から1960年の間、中国は、軍事技術上では総額4億3930万ドルの支援を得て軍事装備の開発と更新を行った。1949年から1962年の間、中国は、全部で650項目に及ぶ装備品生産のライセンスを無料で獲得した。

軍事協力の歴史を国際的に回顧すると、他国に無料でこれ程多くの武器生産のライセンスを提供した国はソ連以外にない。旧ソ連は中国の国防工業建設を支援し、上述の協力の間、5250名の軍事顧問及び専門家を中国に派遣した。また中国側は、1578名の英才を旧ソ連の高等教育機関において教育を受けさせた。

その後、周知の理由により、ソ連と中国は”離婚”した。また国境での衝突に発展し、大規模戦争の一手前まで行った。

中露の軍事協力は1990年に回復した。1992年11月24日、両国は軍事と技術の協力協議書に署名した。1992年12月18日、中露は、軍事と技術の協力に関するメモランダムに署名した。この時期、ロシアはいわゆる”歴史の過渡的段階”に入っていたが、政治制度は西側方式ではなかった。ここで中露は再び”結婚”した。

1993年11月11日、両国の軍事協力に新たな進展があった。当時、双方は両国の

国防部間で協力協議書に署名した。この文書は、両国がアジア地区の平和と安定に寄与すると同時に、両国の主権と国家安全の維持に努力すると述べている。またこの文書によると、双方の協力の範囲は、数個の領域に集中していた。すなわち軍事と政治に関する諮問、情報及び経験のやりとり、教育と訓練、軍事と技術協力及び国防に関する共同研究、経験のやりとりであった。その他の領域は双方に利のある領域を含めた。

2001 年 7 月 16 日、中露は、「中華人民共和国とロシア連邦の善隣友好協力条約」を締結した。この条約は 25 個条から成り、有効期間は 20 年であった。条約は 5 年間の自動更新が可能であった。この条約は双方の協力の主な領域を明確にした。この条約は長期的な軍事戦略の協力体制を確立した。モスクワと北京の利益が一旦挑戦を受け、脅威を受けると双方が諮問することになる。

同条約は、国際的戦略バランスを尊重し、国際的な動きに協調し、衝突を予防し解決する狙いがあった。

1992 年から 2004 年の間は、双方の軍事と技術協力は豊かな成果を得た。ロシアは中国に 100 機以上の戦闘機及びヘリを含む大量の装備を提供した。例えば SU-27 と SU-30MKK である。またロシアは、中国が SU-27 を生産するためのライセンスを提供した。ロシアの専門家は J-10 戦闘機、JF-17 戦闘機、L-15 型練習機の開発に参加した。

さらに中国は TOR-M1 と 15 セット以上の S-300 防空システムを導入した。

2000 年から、中露の間に重大な知的財産権問題が発生した。中国は、J-15、J-16、TOR-MI 等々を含むロシア製武器をコピー生産し、双方は相互不信に陥った。この時期は、完全に“離婚”したわけではないが、婚姻は極めて円満さを欠いていた。このような時においても、一抹の情は通じておかねばならないのである。2008 年以降になると、グルジアの衝突によってロシアと西側の関係がどん底となった。東西が対峙する地縁政治の枠組みが露出し、ロシアの対外政策は再び東方に向かわざるを得なくなった。中露の腐れ縁が改善された。

中国はロシア装備品の輸入を完全に停止したわけではなく、2009 年と 2012 年は、ロシアの装備品輸出全体に占める中国の比率は 9% と 12% であった。

2011 年から、ROSOBORONEXPORT と中国国防部は、150 基の AL-31F 航空エンジンを提供するための協議に合意した。このエンジンは、中国の SU-27 及び SU-30 のエンジンを更新し、かつまた J-11 及び J-16 戦闘機に装備するためのものであった。

2011 年夏、中露は再び中国の J-10 戦闘機に装備する AL-31FN エンジン 123 基の輸出協議に合意した。2011 年冬、双方は 184 基の D-30KP-2 エンジンの輸出協議に合意した。このエンジンは、IL-76 輸送機と H-6K 爆撃機に搭載するものだ。

2012 年、中露は再び 140 基の AL-31F エンジンの輸出協議に合意した。ROSOBORONEXPORT の主管の説明によると、これはロシアと中国の全方位の了解事項であるという。ロシアは中国との協力に合意し聯合して開発と技術移転を行うことになった。また中国はロシアの新型装備に興味を示しているようだ。

2012 年 11 月、ロシア国防部長 **SERGEY SHOYGU** は、中国指導者と中露の新たな協力協議に署名し、「中露軍事及び技術協力委員会」を成立させた。この委員会は、1 年ごとにモスクワと北京で交互に開かれる。

2013 年 3 月、ロシアと中国は、24 機の **SU-35** と 4 艘の **LADA** 級潜水艦を提供する事業に就いて枠組み協議に合意した。

中国側の関係者は、「将来、ロシアと中国の武器輸出入協力関係はさらに深化するであろう。その中には **S-400** 防空システム、**117C** 大型エンジン、**IL-76** 輸送機、**IL-78** 空中給油機が含まれる。軍事技術協力は、装備の提供に留まらず中国の軍事人材の訓練も含まれる。中国軍人は、現在ロシアの大学、専門学校で勉学中である。潜水艦、水上艦、パイロット、及び防空部隊の将兵は皆ロシアで訓練を受けた」と述べた。

2014 年、ウクライナ東部の危機から、ロシアは徹底して西側との政治的因縁を理解した。中露は婚姻関係を修復した。これは双方にとって止むを得ない選択であった。今年から双方代表団の相互訪問及び艦船の訪問が増加している。中露双方は更に多くの交流チャンネルを増やすとともに、両国間の諮問メカニズムを整備し、両国の協力事業の円滑化を図った。両国の軍事演習の回数は増加した。今年中露は海上と陸上で協同演習を実施する。

以上